

4. 幼魚の分布および成長

沖縄県にはハマフエフキの幼魚を漁獲対象とした漁具漁法はなく、幼魚の分布生態は全く明らかでない。

聞き取り調査結果によると、勝連村南風原沿岸では11月に体長10cm前後の幼魚が建干網で漁獲されるようになり、翌年4～5月には、体長15cm前後に成長した幼魚（1歳魚）が漁獲されるようである。この海域は水深2～5mで、砂利、礫、岩の点在する底質である。

知念の南側海域では、3～4月に体長10～15cmの1歳魚がマス網で漁獲されるようである。

また与那原の沿岸では11月頃に体長5～10cmの幼魚が釣獲されるようである。

これらの聞き取り調査結果からすると、ハマフエフキの幼魚は、11月頃体長5～10cmとなり、水深1～5mの岩礁、礫地帯に出現し、その後水温の低下とともに離岸するため3月まではほとんど漁獲されない。4～5月には、体長15cm前後に成長し再び沿岸に接近するようである。

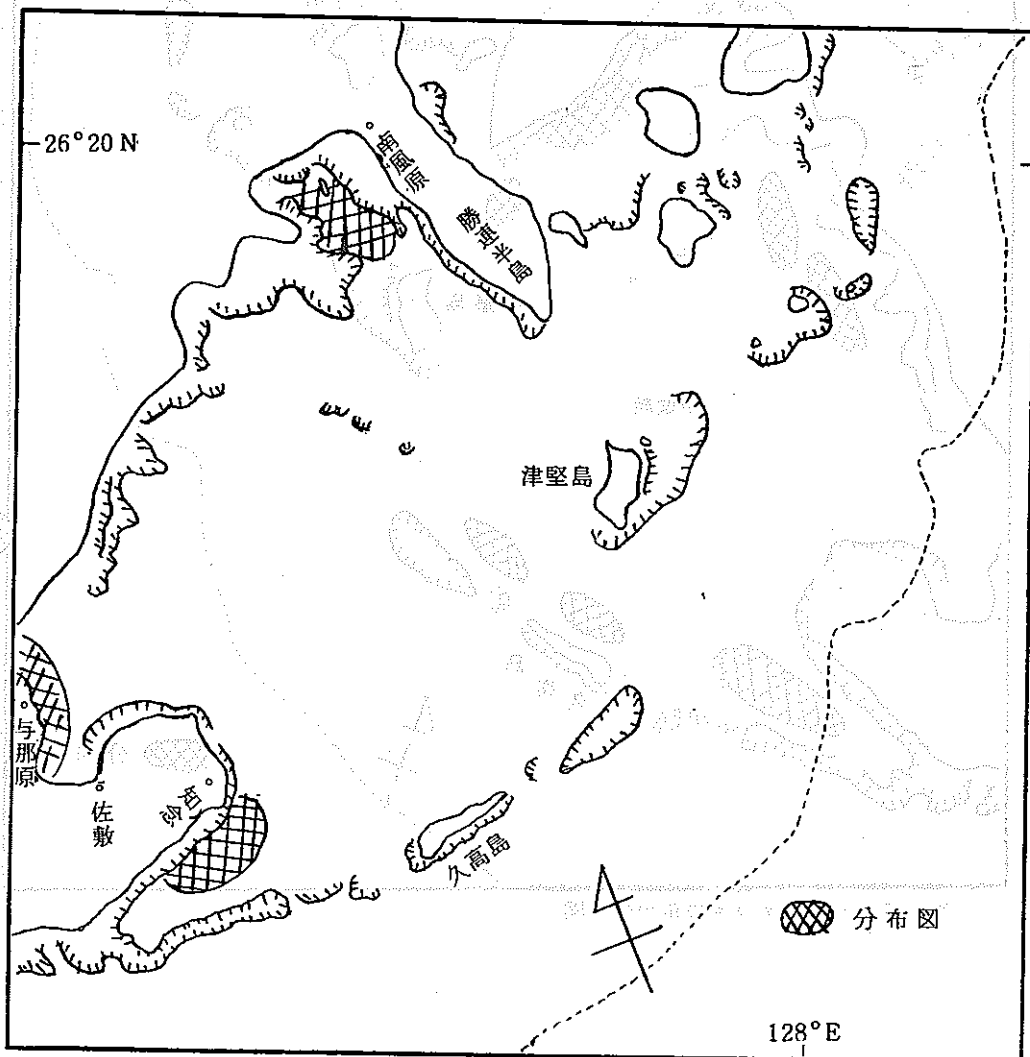


図-4 ハマフエフキ幼魚の分布図